



つばき

令和2年1月8日発行 第9号

所沢市立椿峰小学校

☎359-1146

所沢市小手指南5-20-1

TEL:04-2948-6601

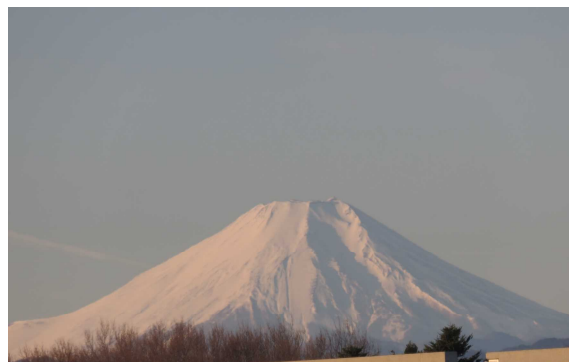
FAX:04-2948-6602

文責：校長 丸山 謙

2020年 明けましておめでとうございます

明けましておめでとうございます。令和に入って初めてのお正月、そして東京オリンピック・パラリンピックの年を迎えました。

去年は、本校の教育活動へご理解・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。新しい年を迎え、本日の始業式で明るく、元気な子どもたちに会うことができ、とても嬉しかったです。今年も昨年同様、よろしく願いいたします。



正月 校舎屋上からの富士山

目標をもつということ

「1月は“行く月”、2月は“逃げる月”、3月は“去る月”」とよく言われています。目標をもたずに何気なく過ごしていると‘あっ’という間に3学期が終わってしまいます。新学期の始まりは、誰にとっても物事の取組への新たな期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。そこで、3学期が‘あっ’という間に過ぎることがないようにするために、今学期の目標を掲げて生活することが必要です。どのような自分でありたいか、どのような役割を果たすべきかを、自分自身でしっかりと意識することが大切です。「分からなかったことが分かるようになってよかった。」という自分の活動の成果を実感するためにも、目標をもち、その実現に向けて精一杯取り組んでいきましょう。

人は目標があることで努力し、その成果を期待するものです。漠然と生活しては、やる気も高まりません。そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志を持つことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にするわけではありません。しかし、目標に向かって努力したことやあきらめずに取り組んだ満足感は、目に見える結果以上に本人にとって‘やりがい’をもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できれば大変嬉しいですし、好ましい結果が得られなくても努力がすべて無駄になるわけではありません。目標を達成するために、精一杯努力したことは、充実感や自信、次の挑戦への意欲をも手にできるのです。

「学ぶことは、まねること」と言われるように、学ぶ環境にはお手本となる存在が必要です。子どもたちにとって目指す姿が見えることで、学びが実現することにつながるとも言えます。それだけに、身近な存在である大人は、良きお手本としての役割が求められます。教育は、共育であり、鏡育でもあります。そこにあって、子どもは大人の鏡であるとも言われます。新学期を迎え、私たちが親として、教師として鏡たる子どもの目指す姿であることを自覚し、目標をもちそれを達成するために前向きに努力している姿を示すことで、子どもたちが大きく成長していってほしいと願います。